

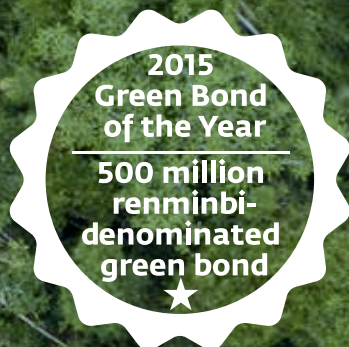
# グリーンボンド・ インパクト・レポート

2020年度





## 本プログラムの受賞実績



CMDポータル発行体  
アワード2015



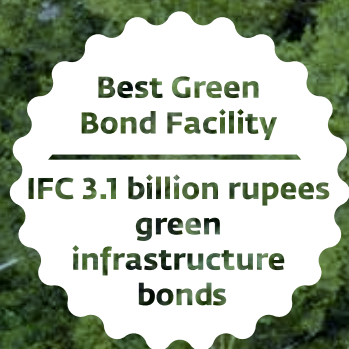
2016 EMEAファイナンス・  
アワード



2016 グリーンボンド・アワード  
クライメート・ボンド・  
イニシアチブ



2016 SSAディール・  
オブ・ザ・イヤー  
グローバル・キャピタル



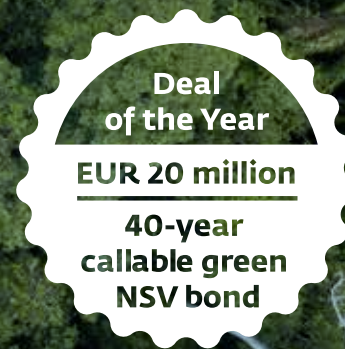
アセット・アジア・インフラ  
アワード2016



環境ファイナンス・  
グリーンボンド・アワード2017



2019 グリーンボンド・  
パイオニア・アワード  
クライメート・ボンド・イニシアチブ



2019 mtn-i MTNアワード  
デジタル市場部門



「気候変動は持続可能な未来に対する最大の脅威ですが、同時に気候問題に取り組むことは、すべての人々の繁栄と安全保障、そしてより明るい未来を推進する絶好の機会でもあります。」

**潘基文**

前国連事務総長

## IFCとは

世界銀行の姉妹組織であり、世界銀行グループの一員であるIFCは、新興国の民間セクターに特化した世界最大規模の国際開発金融機関です。IFCは世界の2,000以上の企業と協力し、IFCの資金、専門知識、そして影響力を駆使することで、最も必要とされている場所に市場と機会を創出しています。2019年度には、極度の貧困を撲滅し、繁栄の共有を促進するべく、民間セクターの力を活用し、途上国に対して190億ドル以上の長期資金を提供しました。詳細は[www.ifc.org](http://www.ifc.org)をご覧ください。

# 目次

4	2020年度のハイライト
6	グリーンボンドの10年の歩み
8	COOからのメッセージ
9	トレジャラーからのごあいさつ
10	気候関連ビジネス局長との対話
11	IFC職員の顔ぶれ:発行チームのご紹介
12	2020年度のIFC気候関連ビジネスの概要
13	2020年度のIFCグリーンボンド・プログラムの概要
16	注目プロジェクト:太陽の力
18	IFCグリーンボンド適格プロジェクトの地域別コミットメント
19	IFCグリーンボンド適格プロジェクトのセクター別コミットメント
20	注目プロジェクト:保健セクターの気候変動対策
22	IFCのグリーンファイナンス市場との関わり
26	生物多様性の重要性
28	持続可能な銀行ネットワーク(Sustainable Banking Network)とは
30	インパクトを生み出す:EGOファンドの最新状況
31	気候変動対策を実現する:REGIOファンドの最新状況
32	<b>2020年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト</b>
40	付属資料A:IFCグリーンボンド・プログラムのプロセス
42	付属資料B:IFCインパクト・レポートの方針
43	付属資料C:IFCグリーンボンド・コミットメントおよび融資実行額の調整
44	作成者および連絡先
44	免責事項

## 2020年度のハイライト

転機の年:

- IFCのグリーンボンド発行額と、気候変動対策向けファイナンスを目的とした新興国における投融資額は、いずれも100億ドルを超えました。
- IFCは現在、2つのアクティブ型グリーンボンド・ファンドを設立しており、25億ドル超を調達して、金融機関および実体セクターへの投融資を行っています。
- IFCは、グリーンボンド市場における発行体のパイオニア、投資家、資金の動員役および助言者としての功績が評価され、グリーンボンド原則執行委員会の委員長<sup>1</sup>に選出されました。

発行本数 **24** 本

総額

**12** 億ドル

**9** 通貨

**8** セクターの  
**21** の  
プロジェクトに  
コミット



風力発電



太陽光発電



バイオマス



グリーンビルディング



グリーンバンキング



輸送



産業の効率化



アグリビジネスおよび  
林業



予想削減量

CO<sub>2</sub>換算で3億8,700万ガロンのガソリン  
消費に相当する年間**340万トン**の温室効  
果ガス (GHG) 排出量を削減<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 1年間の任期中、グリーン、ソーシャル、サステナビリティ・リンク・ボンド原則の300超のメンバーから成る同委員会の委員長を務めます。

<sup>2</sup> <https://www.epa.gov/energy/greenhouse-gas-equivalencies-calculator>



### 予想発電量

再生可能エネルギーにより、欧州の  
モルドバの年間電力使用量を賄える  
**4,984,550 MWh**を発電<sup>3</sup>



### 発電能力の予想拡大量

再生可能エネルギーによる発電能力を  
**1,622 MW**拡大



### 予想節減量

CO<sub>2</sub>換算で石炭2,200万ポンドを燃焼した  
場合に相当する年間**28,228,159 KWH**の  
エネルギーを節減<sup>4</sup>



### 気候変動対策の予想面積

フランスのパリにある世界最大の  
美術館であるルーブル美術館  
の8倍<sup>5</sup>に相当する**488,249平方  
メートルの建物**に気候変動対策  
を導入



2000年度に行った

**1,000ドル**

のIFCグリーンボンドへの  
投資により期待される効果

=

CO<sub>2</sub>換算で  
年間**2.8**トン  
相当のGHGを削減

+

再生可能  
エネルギーにより  
**4.2** MWhを  
発電

CO<sub>2</sub>換算で石炭  
**3,085**  
ポンドを燃焼した場合に  
相当するGHGを削減<sup>6</sup>

**378,716**  
台のスマホ充電が可能<sup>7</sup>

<sup>3</sup> <https://www.worlddata.info/europe/moldova/energy-consumption.php>

<sup>4</sup> <https://www.epa.gov/energy/greenhouse-gas-equivalencies-calculator>

<sup>5</sup> <https://www.livescience.com/31935-louvre-museum.html>

<sup>6</sup> <https://www.epa.gov/energy/greenhouse-gas-equivalencies-calculator>

<sup>7</sup> <https://www.epa.gov/energy/greenhouse-gas-equivalencies-calculator>

2010年

- ニッチ投資家からの需要に応え、IFCが私募形式により最初のグリーンボンド2億ドルを発行

2011年

- IFCが米ドル建て以外の通貨で最初のグリーンボンドを発行

2012年

- IFCが5億ドルのグリーンボンドを発行
- 2012年の世界のグリーンボンド発行総額のうち、IFCが27%を占める
- 国際的ベストプラクティスに沿ったサステナブルファイナンスを推進するため、IFCが持続可能な銀行ネットワーク (Sustainable Banking Network) を設立

2013年

- IFC史上最大となる10億ドルのグリーンボンド2本を発行。2013年の世界のグリーンボンド発行総額の17%を占める
- 企業によるグリーンボンドの第1号が発行される

2014年

- グリーンボンド原則の立ち上げ
- IFCが米国で第1回グリーンボンド原則会議を開催
- 2014年のグリーンボンド発行総額は前年の3倍以上の370億ドルに<sup>9</sup>

## 10年間のグリーンボンド発行の成果

過去10年間、IFCのグリーンボンド・プログラムは、ベンチマーク債の発行、通貨の多様化、およびインパクト報告における先駆けとなり、市場に変革をもたらしてきました。



発行本数 **172**本  
総額  
**104**億ドル  
**20**通貨

**221**の  
プロジェクトに対する  
コミット総額  
**84**億ドル

### インパクトの概要<sup>12</sup>

#### 予想削減量

CO<sub>2</sub>換算で25億ガロンのガソリンを消費した場合に相当する年間**2,180万トン**のGHGを削減<sup>13</sup>

<sup>8</sup> [https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/IP\\_16\\_4217](https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/IP_16_4217)

<sup>9</sup> <https://www.climatebonds.net/resources/reports/year-2014-green-bonds-final-report>

<sup>12</sup> IFCグリーンボンド・プログラムがスタートしたのは2010年。IFCはそれまでもグリーンボンド・プログラムによる調達資金の使途を報告していましたが、2014年度からは、より詳細な報告を求める投資家からのご要望にお応えするため、インパクト・レポートの共通枠組み(HARMONIZED FRAMEWORK FOR IMPACT REPORTING)に基づいた報告を行っています。IFCは、より多くのデータとプロジェクトごとの情報を提供することで、透明性について高度な基準を維持し、インパクト・レポートのさきがけとなっています。

<sup>13</sup> <https://www.epa.gov/greenpower/green-power-equivalency-calculator>



2015年

2016年

2017年

2018年

2019年

2020年

- 国際資本市場協会 (ICMA) が IFC、国際復興開発銀行 (IBRD)、欧州開発銀行 (EIB) およびアフリカ開発銀行 (AfDB) の策定した インパクト・レポートの共通枠組み (Harmonized Framework for Impact Reporting) を発表
- 投資家の目安となる複数のグリーンボンド指数が設定される
- 2015 年の気候変動枠組条約締約国会議 (COP 21) が開催され、パリ協定の交渉が行われる
- IFC が自身の顧客への直接転貸を目的として、「マサラボンド」と名付けられたインドルビー建ての最初のオフショア・グリーンボンドを発行

- グリーンボンド発行額が前年から 92% 増加
- ポーランドが国家として初めてグリーンボンドを発行し、ソブリン・グリーンボンド第 1 号に

- IFC、IBRD および日本の年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) がパートナーシップを締結し、環境・社会・ガバナンス (ESG) 基準を様々な資産クラスの投資判断に盛り込む戦略的イニシアチブについて協力していくことを発表

- 世界銀行グループが 2021 年度～2025 年度の気候関連ビジネスに関する新たな主要目標を発表。意欲的な気候変動対策に取り組む諸国を支援するため、5 年間の投融资額を現行の 2 倍の約 2,000 億ドルに増額

- ICMA と IFC が共同で グリーン / ソーシャル / サステナビリティボンド : SDGs に照らしたハイレベルマッピング (Green, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the SDGs) を発表

- 2018 年のグリーンボンド年間発行額が 1,673 億ドルに達する<sup>10</sup>

- IFC が開発金融機関としては初めて気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) のガイドラインに基づいて気候変動リスクの開示を実施

- IFC が火力発電、化学製品製造およびセメント製造セクターへのプロジェクトファイナンスについてカーボンライシングを導入

- IFC がアムンディと共に世界最大の新興国グリーンボンド・ファンドである Amundi Planet Emerging Green One (EGO) 債券ファンドをローンチ

- ICMA が グリーンプロジェクト・マッピング を発表

- GPIF が IFC の発行するグリーンボンドとソーシャルボンドへの投資を開始

- 非金融会社による気候変動対策向けファイナンスへのアクセスを拡大するため、HSBC グローバル・アセット・マネジメントと IFC が共同で Real Economy Green Investment Opportunity (REGIO) ファンドをローンチ

- 2019 年のグリーンボンドの年間発行額が 2,577 億ドルに達し、前年を 51% 上回る<sup>11</sup>

- 大台を突破 : IFC グリーンボンド・プログラムの発行額と、新興国の金融機関向け気候変動ファイナンスの投融资額がいずれも 100 億ドルを突破

- IFC がグリーン、ソーシャル、サステナビリティ・リンク・ボンド原則執行委員会の委員長に選出される



予想発電量

ナイジェリアの年間電力使用量を賄える  
25,453,443 MWH を再生可能エネルギーにより発電<sup>14</sup>



発電能力の予想拡大量

再生可能エネルギーによる発電能力を  
9,180 MW 拡大



予想節減量

米国の 89,714 世帯の年間電力使用量に  
相当する年間 **749,450,118 KWH** のエネルギーを節減<sup>15</sup>



気候変動対策の予想面積

26,000 人の職員を収容し全長 17.5 マイル (28.2 KM) の廊下を持つ世界最大のオフィスビルである米国防総省に相当する **598,685 平方メートル** の建物に気候変動対策を導入<sup>16</sup>

<sup>10</sup> CBI 2018 Green Bond Market Summary

<sup>11</sup> CBI 2019 Green Bond Market Summary

<sup>14</sup> <https://www.worlddata.info/africa/nigeria/energy-consumption.php>

<sup>15</sup> <https://www.epa.gov/energy/greenhouse-gas-equivalencies-calculator>

<sup>16</sup> <https://www.livescience.com/23020-pentagon.html>

## COOからのメッセージ



ステファニー・ヴォン・フリードバーグ  
IFC最高執行責任者

**新型コロナウイルスのパンデミックは差し迫った脅威であると同時に、低炭素経済に移行し、気候変動危機と闘う大きな機会でもあります。**

しかしこの危機によって、今世紀半ばまでに温室効果ガス(GHG)排出量実質ゼロを実現することの難しさも浮き彫りになりました。急激な景気後退にもかかわらず、年初からの GHG 排出量の減少は7%と小幅に留まっています。経済成長が再びプラスに転じた場合、現行の経済モデルを体系的に変えない限り、GHG の排出量はすさまじい勢いで再び増加すると思われます。

多くの機関や企業が景気回復と化石燃料を切り離そうとしているにもかかわらず、世界で承認された財政刺激策のうち、「気候変動対応型」に分類できるのはごくわずかに過ぎません。

とは言え、多くの投資家は今回の危機を、気候変動対策投資を促す警鐘と捉えています。投資に効果があることは明白です。気候変動対策ビジネスやテクノロジーの世界市場は年間1兆ドル規模にまで成長しています。IFCの分析によれば、新興国21カ国だけでも、2030年までの気候変動対策投資の機会が23兆ドルにのぼります。風力発電および太陽光発電セクターが今後10年間で創出できる雇用は世界で数百万人と推定されており、これは同期間に化石燃料業界からの脱却によって失われる雇用の数を上回っています。

世界的なパンデミック宣言が出された後、グリーンボンドの販売ペースは世界的に低下したものの、グリーンボンドは引き続き、途上国と新興国が資金を調達するための信頼性の高い手段であり、これらの国々における気候変動対策投資を支援することで、よりレジリエントな景気回復を後押しできる可能性を秘めています。

IFCは、グリーンボンド・プログラムの開始から10周年にあたる2020年度に、全世界で24本、合計12億ドルのグリーンボンドを発行しました。その調達資金は、風力発電、バイオマス、グリーンバンキング、太陽光発電、グリーンビルディング、輸送、アグリビジネスおよび林業を含む8セクターの21のプロジェクトに充てられます。本レポートに記載のとおり、これらのプロジェクトを通じて、CO<sub>2</sub>換算で年間340万トン相当の GHG 排出量の削減が期待できます。

また2020年度には、IFCのグリーンボンド累積発行額が100億ドルの大台を突破しました。同僚たちと共にワシントン D.C.の本部で、この節目となった日本の年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) との記念すべき取引の成立に立ち会えたことを嬉しく思います。

新興国の民間セクターを支援する世界最大の開発金融機関である IFC は、気候関連ビジネスの新市場を構築するユニークな立場にあります。私たちは気候変動対策セクターに直接投融資を行い、高成長セクターの気候関連ビジネスをメインストリーム化し、クリーンエネルギー、持続可能な都市、気候変動に対応した農業、エネルギー効率化、グリーンビルディング、グリーンファイナンスなど、主要な分野の新規市場を開拓しています。

また今年は HSBC Real Economy Green Investment Opportunity (REGIO) GEM 債券ファンドの3回目のクロージングが行われ、市場の混乱にもかかわらず、新興国における気候変動の緩和を目的とした投融資を支援するために、4億7,400万ドルの資金を新たに調達しました。

このような、早急に必要とされている投融資のための資金調達において、グリーンボンドが今後より大きな役割を果たしていくことを楽しみにしています。

## トレジャーからのごあいさつ

世界は過去数ヵ月間で一変し、発行体、投資家、引受業者、およびサステナブルファイナンス商品に関する情報提供者としての IFC の役割は、これまで以上に必要かつ重要なものとなりました。

2030 年までに世界の開発目標を実現するための資金は大幅に不足しており、パンデミックによってその状況は一段と悪化しました。

新興国や途上国は多くの課題に直面していますが、その中でも気候変動の脅威はこれまでになく拡大しており、特に途上国や新興国に住む、世界で最も貧しい人々の生活を脅かしています。

### IFC の任務は急を要する

つまり、サステナブルファイナンスや環境に配慮した社会的責任ファイナンスへの投資を、現在の数十億ドルから数兆ドルに増やす必要があるのです。

そこで、成長しつつあるサステナビリティ債券市場、特にグリーン債券の出番となります。10 年前、グリーン債券は存在しないも同然でしたが、昨年はグリーン債券を通じて 1,700 億ドル近くの資金調達が行われ、気候変動関連の投融資に充てられました。

グリーン債券は投資家に対し、投資リターンを得るだけでなく、気候変動対策のビジネス・ソリューションに積極的に貢献する機会を提供します。

昨年度には、IFC のグリーン債券累積発行額が 100 億ドルの大台を突破し、グリーン債券・プログラムの立ち上げから 10 周年を迎えました。グリーン債券による調達資金の投融資は、新興国の気候変動対策プロジェクトに限定されています。

IFC は自ら投融資を行うだけに留まらず、気候関連ビジネスおよび気候変動対策向けファイナンス市場を広げるよう働きかけると共に、グリーン債券市場の形成・拡

大や、現地の金融仲介機関による気候変動対策融資の拡大にも取り組んでいます。

IFC は 2020 年度に、発行体として初めて、環境・社会・ガバナンス (ESG) に関する配慮を引受業者の選定プロセスに明示的に盛り込みました。IFC の資金調達プログラムは、サプライチェーンの川上と川下の両方で ESG に関与するツールとなりえます。言い換えれば、IFC はサステナビリティ債券を投資家に提供するだけでなく、引受業者に対し、これらの価値観を実行していることを証明するよう求めるようになったのです。

今年、IFC はグリーン債券市場を開発する上で果たしてきたいくつかの基本的な役割を振り返っています。過去 10 年の間、IFC の発行プログラムは投資家に発行高と発行通貨の多様性をもたらし、グリーン債券のベンチマークを設定してきました。また IFC は、グリーン債券原則の創立から携わってきた積極的なメンバーとして、ソート・リーダーシップ (Thought Leadership) と基準設定の最前線に立ってきました。その結果、2020 年にはグリーン、ソーシャル、サステナビリティ・リンク・債券原則執行委員会の委員長に選出されました。任期中の IFC の使命は、同委員会と協力して民間セクターによるグリーン債券の活用を大幅に拡大し、現在資本市場で環境プロジェクトに流入している資金のうち、より多くの部分をグリーン債券に振り向け、グリーン債券市場のインテグリティを確保しながら市場を成長させることにあります。

IFC は 2020 年のグリーン債券・インパクト・レポートを発行するにあたり、公正で透明な枠組みを提供すると同時に、すべてのパートナーと協力しながら環境と社会の持続可能性に向けた資金調達を進めていきたいと考えています。

ジョン・ガンドルフォ  
IFC 副総裁兼トレジャー





# 気候関連ビジネス局長との対話



アルズベータ・クライン  
IFC気候関連ビジネス局長

## 気候変動に対応しながら経済を再開

今年、前触れもなく世界を襲ったパンデミックは、私たちの生活のあらゆる面を即座に一変させました。景気は急激に悪化し、雇用は失われ、数百万もの家庭が貧困に陥りました。このことは、世界のシステムが気候変動のような大きな脅威に対してどれだけ脆弱かを示すと共に、先進国と途上国、そしてすべての国の富める者と貧しい者の間に、ショックに対する抵抗力の格差があることを浮き彫りにしました。

気候変動の進行スピードは鈍化しつつありますが、以前と同様に危険であることに変わりはありません。新型コロナウイルスと同じく、対応を誤れば、将来より多くの人的・経済的代償を払わなければならなくなるでしょう。

地球の温暖化は既に生物多様性に悪影響を及ぼしており、今後10年間により大きな脅威となることが予想されます。自然や生物多様性が経済、保健、および気候変動へのレジリエンスに重要な役割を果たすという認識は、次第に広がりつつあります。

気候変動による深刻で取り返しのつかない打撃を防ぐためには、世界が大きく方向転換する必要があることを私たちは知っています。パンデミックは、環境的、生物学的、経済的に持続可能で、全体的なレジリエンスが高く、ショックに適応し、より公平な未来に投資することで、気候変動に対応しながら経済を再開するための大きなチャンスを与えてくれました。財政面では公的予算の逼迫という問題を抱えており、そのため民間セクターの資金を活用および動員することが不可欠となります。

グリーンボンドは、資本市場における一種の「グリーン・スワン」となっています。

グリーンボンドは気候変動対策のための投融資に数十億ドルの資金を呼び込み、投資家の行動を変えました。かつての資本市場では、投資家は自分が何を支援しているのかほとんど知らないまま投資していましたが、今や投資家はかつてないほど投資目的を重視するようになっています。

金融機関や企業は、グリーンボンドを、自身の事業価値を強化し、自社のサステナビリティ戦略を伝え、業務の気候変動対策を整え、気候変動に対する約束を果たすための手段として捉えています。

各国政府や主な金融センター、各国中央銀行、そして銀行監督当局は、グリーンボンド・ガイダンス、環境用語、規制、および報告ガイドラインを策定することにより、金融システムの気候変動対策を進めています。こうした取り組みは、投資家が自身のポートフォリオに含まれる気候変動リスクへのエクスポージャーをよりよく理解し、気候変動対策により多くの投資資金を割り当てるよう促すことで、金融システムのレジリエンスを高めることにつながります。

今日、サステナブルファイナンスが資金調達の未来と考えられているのは、グリーンボンドのおかげと言えるでしょう。

## IFC職員の顔ぶれ 10周年特別企画

IFCは2010年からグリーンボンドを発行してきました。債券発行チームを構成する様々なプロフェッショナルは、それぞれ日常生活にサステナビリティを取り入れています。

「未来の世代のために気候変動を抑制することは、明らかに私たちに課せられた課題です。」



**トム・クスターズ**  
債券市場業務局長

通勤中のカーボン・フットプリントを減らすため、自転車通勤にシフト。2015年に自宅にソーラーパネルを設置しました。

「子どもたちに自然豊かな未来を残すため、私たちができることがあります。」



**黒木 友里**  
資金調達担当オフィサー

家族と共にエコバッグを愛用。熱帯のシンガポールで暮らしながら、自宅ではエアコンを使わず団扇を利用しています。

「次は屋根にソーラーパネルを設置！」



**フローラ・チャオ**  
資金調達担当グローバルヘッド

LEED認証を取得した自宅を改修中。コーラのリサイクルびんから作られたダイニングチェアなど、環境に優しい家具を取り入れています。電気自動車の所有者でもあります。

「文明の崩壊と多くの動植物の絶滅を防ぐための集団的・個人的な役目を誰もが担うべきです。今こそ善良さを取り戻す時です」



**エレナ・パノマレンコ**  
欧州資金調達責任者

自宅の電力はグリーンエネルギーで賄い、肉や野菜を地元の有機栽培農場から購入。

「サステナビリティへのアプローチは、私たちの世代の成熟度を示す鏡となるでしょう。未来の自分に、自分はベストを尽くしたと心から言えるでしょうか？」



**ザウレシュ・カズニヴァ**  
資金調達担当アソシエイト・オフィサー

なるべくゴミ袋を買わない実験をスタートし、オフィスやアパートにある梱包包装材を再利用しています。

「自然は地球からの最も偉大な贈り物。私たちは常に自然に感謝し、自然と共生していかなければなりません。」



**平野 浩康**  
資金調達担当アソシエイト・オフィサー

情報収集には電子書籍を活用し、メモにはリサイクル紙を使用することで日常生活の紙の使用量を削減しています。

「気候変動と戦うには私たちと将来の世代の行動が重要です。私たちの未来はそれにかかっています。」



**安井 真紀**  
シニアIRオフィサー

食品廃棄物問題に真剣に取り組み、食品ロスを抑え、廃棄物を出さない量だけを買うようにしています。

「子どもたちにも私たちと同様にこの星を楽しんで欲しいと考えています。これは文明に対する課題であり、長期的な思考と迅速な行動が求められています。」



**マーチン・フィル**  
アジア太平洋資金調達責任者

最近、自宅の車を処分し、今では主に公共交通機関を利用しています。

「ミレニアル世代とZ世代は、地球温暖化の影響をより強く受けて育ちました。それを変えられるかどうかは私たちにかかっています。」



**ソフィー・ピータース**  
IRアナリスト

プラスチック、水、電力の使用を最小限に抑えています。債券部門の気候変動対応の責任者であり、職場のサステナビリティを推進しています。

## 2020年度のIFC気候関連ビジネスの概要

2005年以降、IFCは気候変動対策向けファイナンスに280億ドルを投資し、また投資家とのパートナーシップを通じて、再生可能エネルギー、エネルギー効率化、持続可能な農業、グリーンビルディング、廃棄物、民間セクターによる気候変動への適応といった気候変動関連のプロジェクトに223億ドルを直接動員してきました。

IFCの投融資および気候関連ビジネス・チームは、産業セクターの専門家や指標のスペシャリスト、気候変動対策向けファイナンスのプロフェッショナルおよびストラテジストを通じて、低炭素事業への投融資機会を特定します。気候関連ビジネス・チームは、カーボンプライシングや投融資プロジェクトの物理的な気候変動リスクの評価といったツールを通じて気候変動リスクの分析を支援しています。

IFCの各国拠点は、顧客の所在国が自国の約束草案（Nationally Determined Contribution、NDC）を実施できるよう、民間投資の誘致を支援しています。各国

政府は、気候変動対策の約束を守るために必要な資金の大半を、民間セクターから調達しなければならないことを認識しています。IFCはこれからも、新興国がこの約束をビジネスチャンスに転換できるよう支援し、新興国による規制環境の整備を助け、融資の提供、および外部の資金を動員するための革新的なソリューションを開発し、気候変動対策のための持続可能な市場を創設していきます。

IFCは、気候変動関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）が推奨するガイドラインに基づいて3回目の開示を行いました。これは、気候変動に関連した財務リスクの評価、管理および報告業務の維持と強化に対するIFCの継続的な取り組みを反映したものです。

2020年度には、IFCの自己勘定からのコミットメント全体のうち、30%を気候変動関連が占めました。IFCの自己勘定から33億ドルを気候変動対策プロジェクトへの投融資に充当し、更に35億ドルの中核資金を動員した計算になります。IFCは2021年度～2025年度の気候関連ビジネスに関する新たな目標を設定しており、自己勘定からのコミットメントのうち、平均35%を気候変動関連ビジネスに割り当てる方針です。

IFCは新しい分野の気候関連ビジネスの開発を続けています。低炭素の経済成長を推進する有望な産業セクターの中でも、エネルギーの貯留、輸送ロジスティクス、分散型再生可能エネルギー発電、洋上風力発電など、新しい成長分野をターゲットとしています。

本レポートには、気候変動対策向けファイナンスに対する年間コミットメントについて記載しています。<sup>17</sup> IFCが2020年度に行った気候変動関連の投融資の多くは、再生可能エネルギー（5億2,900万ドル）、グリーンビルディング（3億6,200万ドル）、産業用・商業用リソースの効率化（2億8,800万ドル）、気候変動に対応するアグリビジネス（1億4,700万ドル）、金融機関を通じた気候変動関連の投融資（14億ドル）といったセクターに振り向けられました。

<sup>17</sup> 後続の数値は自己勘定からのコミットメントに関するものであり、中核資金の動員分は含まれていません。



## 2020年度のIFCグリーンボンド・プログラムの概要



今年度のIFCの業務は、顧客がパンデミックによる社会的・経済的な影響に対処できるよう支援することが大きな部分を占めています。そうした中、IFCのグリーンボンド・プログラムは新しい市場や通貨に進出し、いくつかの取引は大きな注目を集めました。これにより、IFCグリーンボンドの累積発行額は104億ドル、発行本数は172本、発行通貨は20となりました。

気候変動を懸念する投資家からのニッチな需要に応えるため、2010年4月に私募形式で最初の2億ドルのIFCグリーンボンドを発行して以来、IFCのグリーンボンドは、気候変動に配慮したプロジェクトを支援したいと考える債券投資家の間で既に定着しています。2019年9月に世界最大の年金基金である日本年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)向けのグリーンボンドが発行され、これによりグリーンボンドの累積発行額は100億ドルの大台を突破しました。この記念すべき取引はワシントンDCのIFC本部で行われ、IFCの最高執行責任者であるステファニー・ヴォン・フリードバーグが正式に取引を成約しました。

年度初めの2019年7月と8月には、スウェーデンクローナ建てのグリーンボンド5本を公募と私募の形式で発行しました。北欧通貨建てグリーンボンドには1年を通じて強い需要が寄せられ、IFCは更にスウェーデンクローナ建て6本、ノルウェークローネ建ての初のグリーンボンド2本、合計3億6,000万ドル相当を発行しました。

ノルウェークローネに加え、9月前半には発行通貨を更に拡大し、カナダドル建てグリーンボンドの第1号を発行しました。この5年満期、利回り1.375%の7億5,000万カナダドルのグリーンボンドは、IFCがこれまでに起債したカナダドル建て債券の中で最大規模であり、カナダ・モーゲージ債とのスプレッドは、これまでに発行されたどの外国政府、政府機関または国際機関の債券よりも小さく設定されました。最終的には、カナダ(50%)、アジア(26%)、欧州・中東・アフリカ(16%)および米州(8%)の36の投資家が購入しました。

9月後半は公開市場でのグリーンボンドの発行が相次ぎ、9月にGPIFに対して発行した1億5,000万英ポンドをもって、累積発行額は100億ドルの大台を突破しました。これは、2019年度にIFCが発行した最初の英ポンド建てグリーンボンドに次ぐ起債であり、満期は2023年12月、利回りは1.250%に設定されています。

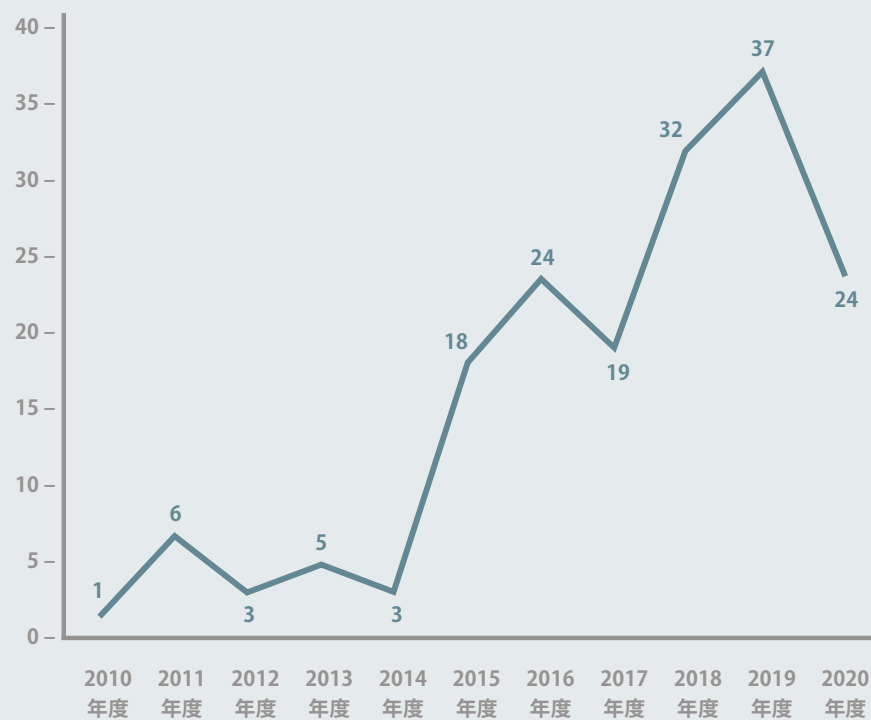
ドイツの機関投資家からは、記名式債務証券(Namensschuldverschreibung、NSV)形式の長期グリーンボンドに対する強い需要が寄せられ、IFCはこれに応えるため、10月に総額2,220万ドル相当のユーロ建てグリーンNSVボンドを初めて発行しました。この40年満期、利回り1.027%のグリーンNSVボンドには、10年後に繰上償還可能という条件が設定されています。この取引は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を実現するために、IFCがいかに革新的なファイナンスを動員し、長期債を提供することによって長期NSV市場の投資家のような多様な機関投資家をも惹きつけているかを示す一例です。この取引は、mtn-iから「MTN ディール・オブ・ザ・イヤー 2019」を授与されました。

個人投資家にグリーンボンドを販売する戦略の一環として、IFCは引き続き日本と米国でリテール向けプログラムを実施しました。米国の個人投資家向けグリーン・インパクトノートプログラムを通じて、IFCはステップアップおよび繰上償還条項付きグリーンボンド3本、合計2,790万ドルを販売しました。また年間を通じ、日本、ブラジルレアルおよびスウェーデンクローナなどの通貨建てで、多くのグリーンボンドを私募形式で発行しました。

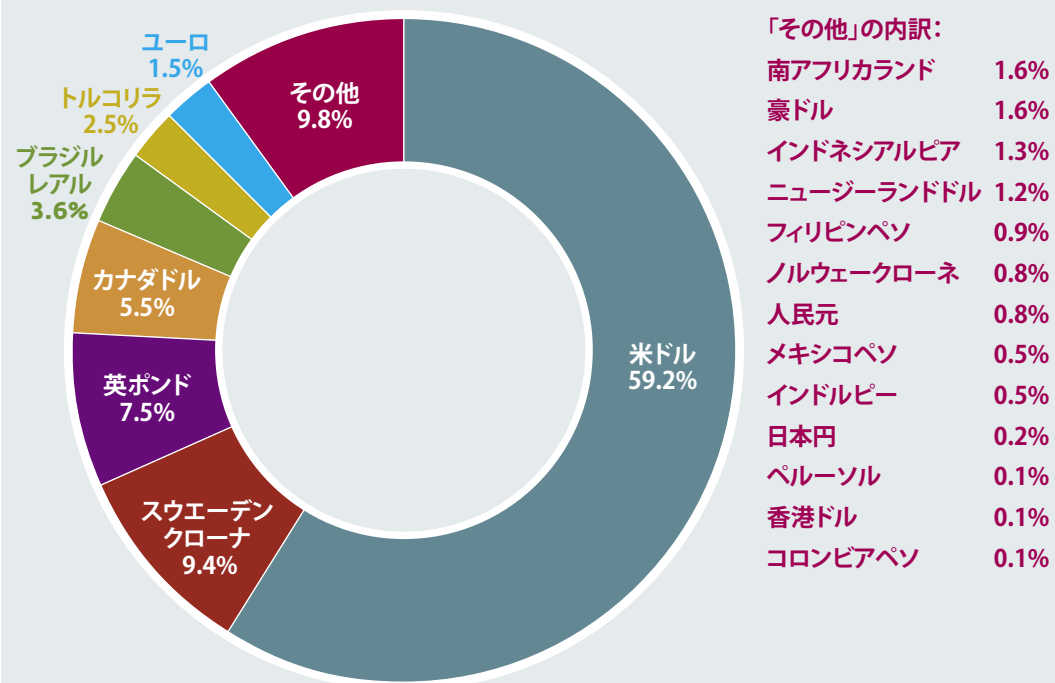
2020年6月30日現在、IFCの発行済グリーンボンドの残高は合計で約59億ドルです。

## 2020年度のIFCグリーンボンド・プログラムの概要

IFCグリーンボンド年度別発行額  
グリーンボンド発行本数



IFCグリーンボンド通貨別累計発行額  
(%)



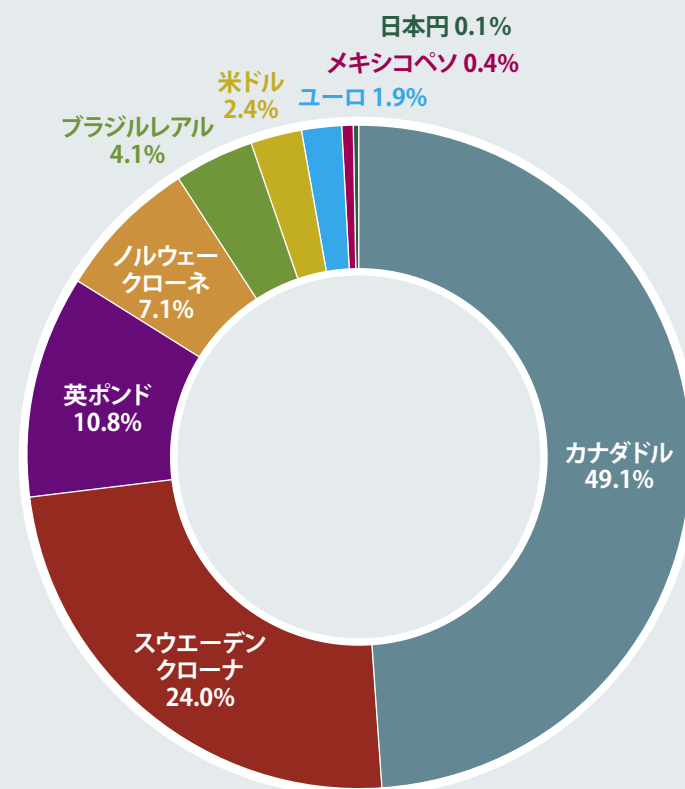
#### IFCグリーンボンド累計発行額

発行額	104億ドル
グリーンボンド発行本数	172本
通貨数	20

#### 2020年度のIFCグリーンボンド発行額

発行額	12億ドル
グリーンボンド発行本数	24本
通貨数	9

#### 2020年度のIFCグリーンボンド通貨別発行額 (%)





# 太陽の力

炭素排出量の削減と持続可能なインフラの実現を支援するため、メキシコの太陽光発電プロジェクト・ポートフォリオに同国初の認定グリーンローンを提供

およそ1億3,000万人の人口と豊富な天然資源を有する**メキシコは、世界第11位の経済国**です。同国は**世界の産油国上位10ヵ国**の一つであり、ラテンアメリカで2番目のエネルギー消費国でもあります。2018年のエネルギー供給量の80%近くは火力発電によるものでした。<sup>18</sup> エネルギー消費量とエネルギー・セクターにおける化石燃料への依存度の高さは、メキシコを悩ませています。現在、メキシコの**温室効果ガス排出量は世界第12位**であり、加えて今後15年間のインフラ投資の不足額は、電力セクターだけでも約1,000億ドルにのぼります。<sup>19</sup>

太陽光発電の価格競争力が高まれば、メキシコがエネルギー需要を満たすための最も低コストの選択肢の1つとなるだけでなく、同国のエネルギー安全保障を支えられる可能性があります。したがって、IFCは同セクターの主要事業者との提携を模索してきました。2019年～2020年にかけて、IFCはInfraestructura Energetica Nova (IEnova)を支援するために5億4,100万ドル、期間15年のグリーンローン・ファシリティを組成し、資金動員しました。

このグリーンローンは、合計526メガワットの発電が可能なメキシコ国内の5つの太陽光発電所プロジェクトの建設に充てられます。これらの太陽光発電プロジェクトは同国の炭素集約的な火力発電に取って代わり、年間約79万3千トンの炭素排出量削減に貢献すると見られています。

IFCは、IEnovaの最初の太陽光発電プロジェクトに資金を提供することで、より気候変動に対応したビジネスモデルへの移行を支援したいと考えています。IEnovaはローン市場協会(Loan Market Association)の発表したグリーンローン原則を採択しているため、この投融資はメキシコにおける最初のIFC認定グリーンローンでもあります。

IFCは20年にわたり、再生可能エネルギー技術とそれに関連する契約枠組みの融資可能性を実証することなどを目的として、メキシコの電力セクターに関わってきました。この投融資はその一環として行われたものです。これまでにIFCが動員した資金は、メキシコにおける約1ギガワットの太陽光発電能力向上に役立てられています。

18 Prodesen 2018-2032, pg. 23. <https://base.energia.gob.mx/prodesen/PRODESEN2018/PRODESEN18.pdf>  
Prodesen 2019-2033, pg. 27. [https://www.gob.mx/cms/uploads/attachment/file/475497/PRODESEN\\_V.pdf](https://www.gob.mx/cms/uploads/attachment/file/475497/PRODESEN_V.pdf)  
19 Prodesen 2018-2032, pg. 135. <https://base.energia.gob.mx/prodesen/PRODESEN2018/PRODESEN18.pdf>



# IFCグリーンボンド適格プロジェクトの 地域別コミットメント

(百万米ドル)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
コミットメント	936	1133	961	1555	2205	885	695	8369
融資実行額	242	956	754	1356	1914	1135	642	6999

2020年6月30日現在、IFCのグリーンボンド調達資金を充当したグリーンボンド適格プロジェクトは221件に上りました。これらのプロジェクトへのコミットメント総額は84億ドルで、そのうち70億ドルが既に融資実行されました。

## ラテンアメリカ・カリブ海

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	618	422	90	534	406	252	330
融資実行額	156	551	210	449	357	208	171

## 多地域

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	0	0	0	24	0	0	0
融資実行額	0	0	0	17	7	0	0

## 欧州・中央アジア

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	178	370	284	320	834	121	119
融資実行額	66	228	265	312	833	183	255

## 中東・北アフリカ

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	55	59	119	137	265	45	108
融資実行額	9	34	86	184	75	148	62

## サブサハラ・アフリカ

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	23	43	39	37	63	20	17
融資実行額	0	19	21	22	14	42	32

## 南アジア

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	62	239	200	299	297	122	84
融資実行額	11	125	154	194	200	248	75

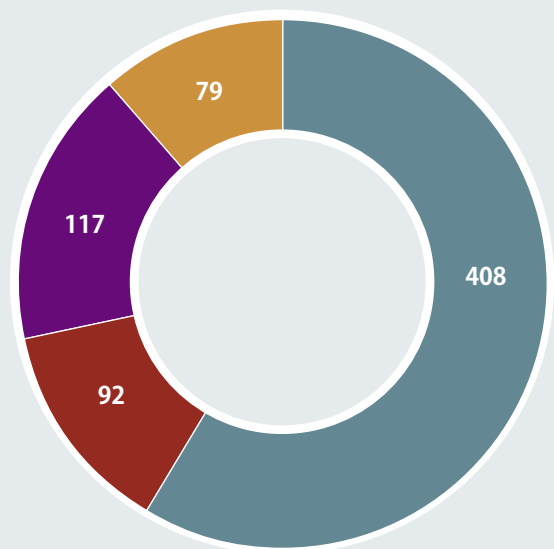
## 東アジア・大洋州

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
コミットメント	0	0	229	204	340	325	38
融資実行額	0	0	18	179	427	306	47



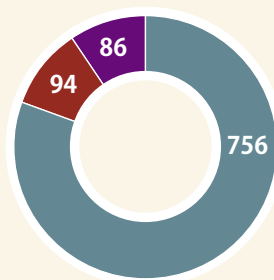
## IFCグリーンボンド適格プロジェクトの セクター別コミットメント

2020年度  
合計:6億9,500万ドル

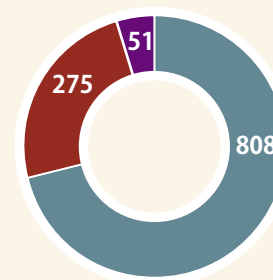


再生可能エネルギー  
エネルギー効率化  
その他緩和策  
適応策

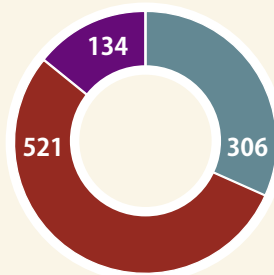
2014年度  
合計:  
9億3,600万ドル



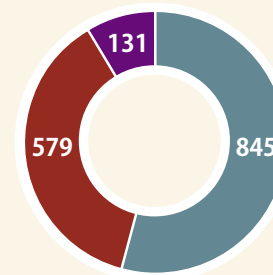
2015年度  
合計:  
11億3,400万ドル



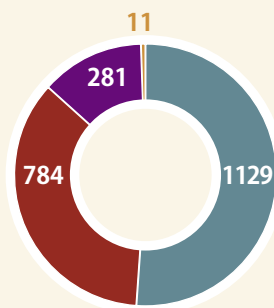
2016年度  
合計:  
9億6,100万ドル



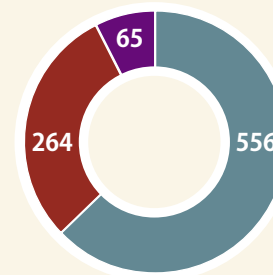
2017年度  
合計:  
15億5,500万ドル



2018年度  
合計:  
22億500万ドル



2019年度  
合計:  
8億8,500万ドル



# 保健セクターの気候変動対策

気候変動とパンデミックに対するレジリエンス改善を目的とした民間セクターへの投融資が、ガーナに新しい市場を創る

ガーナは過去3年間で大幅な経済成長を遂げ、2019年の経済成長率は世界有数の高さを記録しました。しかし、原油価格の下落とコロナウイルスのパンデミックが痛手となり、西アフリカで2番目の経済規模を誇る同国の成長率は37年ぶりの水準まで落ち込むと見られています。ヘルスケア業界と経済成長の主な原動力に最も強さが求められる今、ガーナは保健サービスの改善に取り組み、成長への重点的な取り組みを見直しつつあります。

保健セクターのイノベーションを推進する上で、民間セクターが果たす役割を拡大することにより、ガーナに新しい市場を創出できる可能性があります。またガーナ政府は、今回のパンデミックを受け、持続可能な未来に焦点を当て、気候変動に対する国全体のレジリエンスを高めるために、国別適応計画(NAP)の策定に着手する時期だと判断しました。政府はNAPの策定プロセスを利用し、コロナ後の投融資プロジェクトを気候変動に対応したものにすることを目指しています。これは、気候変動に対する国のレジリエンスを支える市場を民間セクターが創出しうる、もう一つの方法を示しています。

IFCはこの機会を、民間セクターの資金を呼び込み、気候変動と新型コロナウイルス両方の影響に対するレジリエンスを高めるチャンスと考えました。IFCはガーナの大手ヘルスケア・プロバイダーであるNyahoに対し、520万ドルの融資を提供しました。この資金は、Nyahoの事業地域を首都アクラの外まで広げ、既存の病院を改良して患者により良いサービスを提供するために活用されます。

IFCは、Nyahoの主幹病院がEDGE (Excellence in Design for Greater Efficiencies) 認証を取得することができ、すべての施設がIFCの環境・社会基準に準拠したものとなるよう、助言サービスを提供します。ガーナではエネルギー価格が高く、たびたび水不足に見舞われますが、病院の建設者はEDGE認証を取得することによって資源効率を高め、建設コストの削減と競争力の向上を実現できます。加えて、資源の効率化は患者に対する治療の改善にもつながります。節減できた運営費用は、患者の健康を増進し、命を救うことのできる、より治療に適した環境作りに役立てることができます。



ガーナにあるNyahoの診療所

## IFCのグリーンファイナンス市場との関わり

IFCの主要戦略は、他の開発金融機関や発行体、投資家、引受業者および他の市場参加者と積極的に協力しながら、持続可能な資本市場の発展を推進することにあります。

### 説明責任の強化

IFCは毎年、引受業者スコアカードによって、当該年度の資金調達プログラムの過程で取引があった債券引受業者の順位付けを行っています。これには、仲介された資金額、提供されたサービスの質、IR活動、環境・社会・ガバナンス (ESG) に関する取り組み、および付随的サービスの評価が含まれます。このスコアカードを補完するものとして、IFCは6月に、銀行のESGに関する取り組みを評価するためのESGディーラー調査を立ち上げました。引受業者の選定プロセスにこれらの配慮を体系的に組み込んだ発行体はIFCが初めてです。

ESGディーラー調査は、年次ESG評価を補強および標準化したものであり、スコアカードの年間順位を決定する際の判断材料として用いられます。IFCは60以上の引受業者にESGディーラー調査を送付しました。この調査の目的は、ディーラーが提供する商品に留まらず、ESGに関する事柄について、詳細な情報を独立した形で得ることにあります。IFCは、社内慣行や、ESGがそのディーラーの企業戦略の中でどの程度重要であるかに関する情報を引き出すための一連の質問を作成しました。21の質問は、当該金融機関の特定セクターに対するエクスポージャー、職員の福利厚生、安全および多様性に関する社内方針の有無、ならびに扱っているサステナビリティ商品の種類などのテーマに関するものです。

IFCはスコアカードの順位を基に、ディーラーへの働きかけやフィードバックを行うと共に、引受業者を選ぶ際の判断材料としています。







## サステナビリティボンドの開発を指揮

IFCの任務は、グリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティボンドによる資金調達と結びついています。IFCは、6年前に設立されたグリーンボンド原則およびソーシャルボンド原則の執行委員会、またより最近ではサステナビリティボンド原則の執行委員会の創立から携わってきた積極的なメンバーであり、2020年6月に委員長に選出されました。同委員会のIFCの代表者を務めるIR部門責任者のエソヘ・デニス・オダーロは、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドおよびサステナビリティ・リンク・ボンドの起債を、国際機関や国家だけでなく企業にも広げるべく指揮を執っています。IFCは今後1年間、同委員会のリーダーとして、環境と社会の持続可能性の実現に向け、これらの商品を利用した資金調達を推進すると共に、公正で透明な枠組みを提供していく方針です。



## 日本のグリーンボンドを取り巻く状況

日本では、ESG投資が大きなトレンドとなっています。日本は天然資源に限られており、輸入資源への依存度が高いため、エネルギーと水の節減に対する関心が非常に高いことが特徴です。加えて近年では、異常気象による自然災害の発生など、気候変動が環境に及ぼす悪影響が認識されつつあります。

日本の資本市場では、環境問題に強い関心を持つ生命保険会社などの機関投資家が、グリーンボンド市場に参加しています。また2018年6月には、環境省がグリーンボンドの発行を支援するため、外部レビューおよびコンサルティングへの助成を開始しました。投資家コミュニティや環境省からのこうした支援を背景に、日本の企業と地方自治体が発行したグリーンボンドの本数および金額は、2016年の6本、合計748億円(6億8,000万ドル相当)から、2019年の58本、合計8,238億円(75億ドル相当)まで増加しました。

2019年以降、年金積立金管理運用独立行政法人や他の日本の大手資産運用会社がグリーンボンド市場に進出しています。IFCのグリーンボンド・プログラムは、公募形式、私募形式および売出形式で発行されたグリーンボンドに対する日本の機関投資家および個人投資家の需要によって支えられています。また2019年には、日本の投資家や証券会社による責任投資を更に推進するために、東京での年次日本投資家フォーラムにおいて第1回ESGセミナーを開催しました。

## 受賞

### 2,000万ユーロのグリーン NSV ボンドが MTN ディール・オブ・ザ・イヤーを受賞

IFC 初のユーロ建てグリーン NSV ボンドが、mtn-i MTN アワードのデジタル市場部門で「ディール・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。この40年満期の2,000万ユーロの債券は、ドイツの機関投資家の長期債需要に応えるため、2019年10月にDZ Bankの革新的なInGenプラットフォームの支援を得て発行されました。



FC資金調達チームのエレーナ・パノマレンコとフローラ・チャオがDZ Bankと共同で受賞。  
ロンドン、2020年2月

### 日本の年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF)との協力がエディターズ・アワードを 獲得

2019年3月、資本市場をサステナブル投資に動員するためのIFCとIBRDによるGPIFへの働きかけが実を結び、GPIFはIFCのグリーン債券を初めて購入しました。GPIFはこれに先立ち、外部の資産運用会社がESG債に積極的に投資できるよう、内部の投資ガイドラインを変更しており、これを受け、総額73.1兆ドルを運用する他の年金基金や資産運用会社もアプローチを変更する可能性があります。IFCとIBRDのパートナーシップは、mtn-i 売出し債券アワードおよびアジアパシフィックアワード2019の「エディターズ・アワード」を受賞しました。



シンガポール拠点の資金調達チームの平野浩康がIFCを代表して授賞式に出席 2019年10月

### IFCのエソヘ・デニス・オダーロがEFのパー ソナリティ・オブ・ザ・イヤーを受賞

IR部門責任者を務めるオダーロは、IFCのグリーン債券・プログラムの管理者であり、またグリーン債券原則執行委員会の発足時から、IFCを代表して同委員会に参加してきました。2020年3月には、グリーン債券、ソーシャル債券およびサステナビリティ債券市場の開発と、投資家への啓蒙活動が評価され、「パーソナリティ・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。

## イベント



### IFC-ミルケン研究所 資本市場イベント2020

アフリカの企業、政府および政策立案者の間では、持続可能な未来の実現に向け、資本市場を通じて資金調達を行う方法についての関心が高まっています。IFCの資金調達およびIR部門は、グリーンボンドやそれに関連する投資機会に焦点を当てたセッションを開き、新興国が市場に参入する場合に特有の課題について解説しました。



### 日本とアジア：グリーン/ソーシャル/サステナビリティ (GSS) ボンド市場の発展

2019年10月9日、IFCの安井真紀が資本市場におけるSDGsの役割に関する会議にパネリストとして登壇し、発行体がテーマ債を発行する際の障害や、GSS債を初めて発行する際に取りべきステップについて解説しました。



### IFCグリーンボンドが100億ドルの 大台を突破

IFCグリーンボンドの累積発行額は、節目となる GPIF との取引をもって、100億ドルの大台を突破しました。ステファニー・ヴォン・フリードバーグ COOが、ワシントン D.C. の本部においてこの記念すべき起債の条件を引受業者と確認し、取引を成立させました。



エレナ・パノマレンコが、2020年6月23日に開催された Environmental Finance主催の「より良い復興 (Build Back Better)」ウェブセミナーで、新型コロナウイルス関連の債券について話をしました。

### 英国のグリーンボンドで成長を目指す

6月30日、エソヘ・デニス・オダーロがサステナブルファイナンスに関する超党派議員連盟の主催した会議に参加し、英国政府がグリーンボンドを発行して低炭素プロジェクトへの投融資を推進し、同国の成長、雇用、および生産性を後押しするにはどうすればよいかを協議しました。





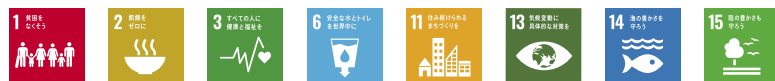




# 生物多様性の重要性

世界の投資家は、ESG リスクの評価に生物多様性を盛り込むことの重要性に目覚めつつあります。その一因としては、国連の生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォームが2019年5月に画期的な「生物多様性と生態系サービスに関するグローバル評価報告書」を作成し、世界的な生物多様性の憂慮すべき減少にスポットライトを当てて以来、このテーマへの関心が高まっていることが挙げられます。

また同報告書は、生物多様性への加速度的な影響が、自然だけでなく、特に貧困、飢餓、健康、水、まちづくり、気候変動、海、陸に関連した持続可能な開発目標 (SDGs) の成功をも脅かしているという事実を浮き彫りにしました。



自然保護に取り組む科学者にとって、このニュースは全く驚くものではありませんでした。幸い、生物多様性が加速度的に失われつつあることについての懸念の高まりに対し、あらゆる種類の企業や資産オーナー、資産運用会社に対応し、またポートフォリオ全体の生物多様性関連リスクや、生物多様性への依存度の測定を目的とする多くのイニシアチブ（例：生物多様性に特化した指標、格付制度および格付手法）も登場しています。同報告書の調査結果が発表される以前でさえも、「グリーンファイナンス」の下位区分であり、生物多様性に便益をもたらす投融資を対象とする「保全ファイナンス」への関心は、ここ数年上昇傾向にあり、保全ファイナンス連合 (Coalition for Conservation Finance) や保全ファイナンス同盟 (Conservation Finance Alliance) といった組織が誕生したことはその一例です。

生物多様性が失われれば、地球の生態系がもたらす経済的繁栄と人類の発展に貢献する資源が大幅に失われかねません。このことは、多くの人々が天然資源に依拠した生活を送る途上国において、特に重要な問題となります。生物多様性を保護・保全し、生態系サービスを維持し、生物天然資源を適切に管理することは、持続可能な開発に必要な不可欠です。

IFC は10年以上前から、自らの投融資における生物多様性へのリスクについて、説明責任を果たしてきました。2012年には、保護団体や実業界、学界、政府、金融業界のステークホルダーとの3年間にわたる幅広い協議を経て、パフォーマンス基準6「生物多様性の保全と生物天然資源の持続可能な管理 (Biodiversity Conservation, and Sustainable Management of Living Natural Resources)」の見直しを行いました。IFCは融資業務の中で、生物多様性リスクの管理を完全にメインストリーム化しており、また生物多様性リスクをスクリーニングする重要なツールとして世界的に利用されている総合生物多様性評価ツール (Integrated Biodiversity Assessment Tool) の開発を支援し、2009年に金融機関としては初めて同ツールを適用しました。約20人のプロフェッショナルから成る IFC の生物多様性チームは、投融資の最も初期の段階で評価ツールを用いて世界中のプロジェクトのスクリーニングを行い、顧客やパートナーと協力しながら、各プロジェクトに合ったリスク管理の方法を決定しています。新興国において、持続可能な方法でビジネスを進め、メリットとデメリットのバランスを取るためには、判断力、戦略、そしてイノベーションが求められます。IFCでは、こうした独自のスキルの組み合わせを生かし、融資担当者と自然保護のプロフェッショナルが協力しながら業務を行っています。IFCにとって、自然保護への取り組みは単純なものではなく、様々な分野やバックグラウンドの経験や理解が求められます。

IFCは伝統的にプロジェクトファイナンスに重点を置いてきたものの、セクター全体にまたがる計画立案という IFC の新たな取り組みでは、今や生物多様性に関する優先課題が中心的な位置を占めており、特に再生可能エネルギーセクターにおいてその傾向が顕著です。IFC がパキスタン、ミャンマーおよびヨルダンのステークホルダーや政府機関と行った景観規模の計画立案は、これらの国々のエネルギーセクターにおける、より持続可能な投融資の下地を整える役割を果たしました。IFCの新たな重点分野の1つが資本市場であり、生物多様性に特化した一連の革新的な指標を導入することにより、ESG のパフォーマンスを発行体の分析に取り入れたいと考えています。そうすることで、生物多様性への影響をより適切に管理するプロジェクトや、環境保護に焦点を当てた、より幅広いインパクト投資戦略に対する投資家の関心の高まりに対応できると考えています。道はまだ遠いとは言え、金融機関がソリューションの中で重要な役割を果たすにはどうすればよいかを探ることに IFC は真剣に取り組んでいます。

左から:

**アメナ・アリフ氏**

IFCスリランカおよびモルディブ担当  
カントリーマネージャー

**アルチル・メストヴィリシヴィリ氏**

ジョージア国立銀行副総裁

**エチオピス・タファラ氏**

多数国間投資保証機関(MIGA)副総裁

**レイ・ラチャナ氏**

カンボジア銀行協会サステナブルファイナンス委員長、  
カンボジア外国投資銀行(FTB)副統括局長／  
最高リスク管理責任者

**P. ナンダラル・ウィーラシンゲ博士**

スリランカ中央銀行上級副総裁

**チア・セレイ氏**

カンボジア国立銀行統括局長

**ヤン・ヴァン・ビルセン氏**

IFCシニア・マネージャー

**カイリー・ケルホーファー氏**

IFCカンボジア担当カントリーマネージャー



持続可能な銀行ネットワーク  
(Sustainable Banking Network)  
グローバル会議、2019年



# 持続可能な銀行ネットワークとは

IFC は、持続可能な銀行ネットワーク (Sustainable Banking Network) を通じて、金融セクターのアップストリームに位置する金融規制当局、銀行協会および資本市場当局と協力しながら、新興国全体における国別サステナブルファイナンス枠組みの開発と導入を深化させ、グリーンボンドの発行をはじめとする、サステナビリティに焦点を当てた投融資を実現することに取り組んでいます。2020 年 7 月現在、SBN には 40 カ国の 55 の機関が加盟しており、その資産総額は新興国の銀行資産の 86% に相当する 43 兆ドル超にのぼります。SBN の加盟機関は、グリーンボンド市場の開発とグリーンボンドの発行、およびグリーンファイナンス用語の策定を優先課題と位置づけています。

38 市場の動向を評価した SBN の 2019 年の「グローバル・プロGRESS・レポート (Global Progress Report)」は、グリーンボンドが、各国の気候変動に焦点を当てたグリーンファイナンス市場の発展を牽引する重要な原動力として台頭していることを明らかにしました。SBN 加盟国のうち 14 カ国が、概ね国際基準に沿っているか、国際基準を直接参照したグリーンボンドガイドラインを策定しています。



同様に、SBN が 2020 年 6 月に発行した国際開発協会 (IDA)<sup>20</sup> 加盟国のトレンドに関する特別報告書「求められる野心：低所得国は貧困、気候変動、その他喫緊の課題に対処するためにいかにしてサステナブルファイナンスを導入しているか (Necessary Ambition: How Low-Income Countries Are Adopting Sustainable Finance to Address Poverty, Climate Change, and Other Urgent Challenges)」は、SBN の IDA 加盟国がグリーンファイナンス、とりわけグリーンボンドの開発

を、自国の喫緊の開発ニーズを満たす投融資を誘致するための将来の優先的な行動課題であり、そのための強力な戦略として認識していることを裏付ける内容でした。同報告書で取り上げられている 8 カ国中、4 カ国 (バングラデシュ、ケニア、モンゴル、ナイジェリア) は、グリーンボンド枠組みの導入、インセンティブの提供、ソブリン・グリーンボンドの発行、用語の策定、および民間セクターによる起債を促

すための能力開発において先頭に立っています。

また SBN は、2018 年に SBN グリーンボンド・ワーキンググループ (Green Bond Working Group) が発表した「グリーンボンド市場の創造 (Creating Green Bond Markets)」報告書に従い、Amundi Planet Emerging Green One (EGO) ファンドの技術支援プログラムと協力しながら、加盟者間の知識共有や、国レベルのイニシアティブを支援してきました。同報告書はいくつかの特集を組んでおり、クライメート・ボンド・イニシアチブとモンゴル・サステナブルファイナンス・イニシアチブ (Mongolian Sustainable Finance Initiative) を取り上げた「用語策定のトレンドおよび新興国から得られた教訓」に関する 2020 年 2 月開催のウェブセミナーや、IFC がコロンビア、ジョージア、モンゴル、南アフリカで行っている国レベルの支援に対する有益な情報、および 2020 年 6 月にジョージアと南アフリカが行った環境用語の策定に関する加盟者間のオンライン学習交流を紹介しています。

これらの報告書や知識交流は、新興国が金融セクターを変革し、気候変動への対応を強化して市場のレジリエンスを高められるよう、新興国を直接支援しています。これらの報告書が提供している知見やツールは特に時宜に合ったものとして、加盟者から大いに歓迎されました。SBN 加盟国はそこからヒントを得て、新型コロナウイルスのパンデミックへの対応手段、およびコロナ後の経済再建の手段としてサステナブルファイナンス戦略を活用し、グリーンボンド市場の開発を加速させました。

加盟機関の間で、こうした新しいトレンドに関する知識への関心や需要が高まっていることを受け、SBN は今後、グリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティリンクボンドにも焦点を広げていく方針です。SBN は 2021 年に発行予定のグローバル・プロGRESS・レポート第 3 号 (隔年発行) に備えて測定枠組みの更新に着手しており、測定対象のサステナブルファイナンス商品の範囲を広げ、グリーンボンドだけでなく、ソーシャルボンドやサステナビリティボンドのほか、サステナビリティに関する他の金融商品も含める方針です。

20 IDAはINTERNATIONAL DEVELOPMENT ASSOCIATIONの略であり、世界の最貧途上国に譲許的融資およびグラントを提供する世界銀行グループ傘下の国際金融機関です。IDA加盟国の一覧およびその他の情報は <http://ida.worldbank.org/about/borrowing-countries> をご覧ください。



# インパクトを生み出す： Amundi Planet EGOファンドの 最新状況

## 2020年度のハイライト

EGO ファンドは、国際機関1つを含む43カ国の96の発行体が起債した101銘柄に分散投資を行っており、運用利回りは4.59%です。グリーンボンドは、同ポートフォリオの運用資産総額(14億5,000万ドル)のうち、40%近い5億7,100万ドルを占めています。グリーンボンド・ポートフォリオは、17の銀行と3つのノンバンク金融機関<sup>21</sup>を含む新興国の金融機関が発行した25本のグリーンボンドで構成されています。

同ファンドには、大手年金基金、保険会社、資産運用会社、国際開発銀行、その他の機関投資家を含む合計16の投資家グループが総額14億2,000万ドル(IFCのコミットメント2億5,600万ドルを含む)をコミットしており、この金額は新興国のグリーンボンドに投資されています。

調達資金は、主に再生可能エネルギー、エネルギー効率化、環境配慮型輸送、グリーンビルディングおよび水の管理という5つのセクターに集中したプロジェクトへの資金提供に充てられます。メキシコ、コスタリカおよびブラジルで発行されたグリーンボンドに関しては、調達資金の100%が再生可能エネルギーに用いられました。アラブ首長国連邦(UAE)ではグリーンビルディングが最も多くの割合を占め(62%)、一方、インドと中国では環境配慮型輸送(それぞれ49%と54%)が最多となっています<sup>22</sup>。



ストックホルムで開かれた銀行幹部向け研修プログラムの参加者第2グループ

## EGO ファンドとは

Amundi Planet Emerging Green One (EGO) ファンドは、2018年2月に発足した世界最大の新興国グリーンボンド・ファンドです。同ファンドはアムンディによって運用されており、新興国の金融機関が発行したグリーンボンドに投資しています。同ファンドはIFCから2億5,600万ドルの投資を受け、14億2,000万ドルで募集を締め切っており、7年の投資期間にわたり、20億ドルをグリーンボンドに割り当てる予定です。同ファンドは、新興国の銀行による気候変動対策投資への資金提供能力を高め、新興国における気候変動対策向けファイナンスの規模とベースを拡大することを目的としています。

## 責任投資原則アワード

IFCとアムンディのパートナーシップは、2020年度に責任投資原則(PRI)アワードの「リアル・ワールド・インパクト・イニシアティブ・オブ・ザ・イヤー2019」を受賞しました。アムンディとIFCのパートナーシップが、独立した審査員が選ぶ世界的な賞を獲得するのはこれで6回目となります。

## グリーンボンドおよびサステナブルファイナンスに関する銀行幹部向け研修プログラム

IFCは、グリーンボンド技術支援プログラムの一環として、グリーンボンドおよびサステナブルファイナンスに関する銀行幹部向けの研修プログラムをストックホルムで5日間にわたり実施しており、2019年には同プログラムを2回開催しました。

この銀行幹部向け研修プログラムは、グリーンボンドの起債や、グリーンローンなどの商品を含むサステナブルファイナンスの背景にある要因についての知見を提供するため、ルクセンブルク証券取引所の支援を得て、ストックホルム商科大学、国際資本市場協会(ICMA)およびIFCが共同で設計したものです。同プログラムには、9カ国、20金融機関の61人が参加しました。参加者の中には、国債、サステナビリティ、クレジット、法人/リテール向け融資など、グリーンボンドの起債を担当する様々な部門の幹部が含まれていました。

## 調査報告書

2020年度には、新興国の金融機関によるグリーンボンドの起債を推進するため、先進国と比較しながら新興国のグリーンボンドに固有の問題を取り上げた、IFCとアムンディの共同刊行物である「新興国のグリーンボンド(Emerging Market Green Bonds)」と、IFCの刊行物である「新興国のハード・カレンシー建て債券(Emerging Market Hard Currency Bonds)」の2つの調査報告書が発表されました。

21 2020年6月末現在のデータ  
22 2019年12月末現在のデータ



## 気候変動対策を実現する： REGIOファンドの最新状況

IFCとHSBCグローバル・アセット・マネジメントは、リアルエコノミー・セクターによる気候変動対策向けファイナンスへのアクセスを拡大し、新興国におけるグリーン債券市場の発展を推進することを目的として、2019年6月4日に Real Economy Green Investment Opportunity (REGIO) ファンドを立ち上げました。IFCとHSBCは、アンカー投資としてそれぞれ7,500万ドルを提供しています。同ファンドの合計運用期間は、7年の投融資期間を含む最長15年間に設定されています。REGIOは、グリーン債券市場における発行体、投資家および基準設定者としてのIFCのリーダーシップの上に成り立っており、IFCはこうした立場から、技術支援ファシリティも提供していく方針です。

REGIO ファンドは、2件のアンカー投資に続いて、2020年5月20日に3回目のクローズングを行い、参加した7つの民間投資家から3億2,400万ドルを調達しました。年内には他の投資家からのコミットメントも予定されています。これにより、同ファンドの累積的投融資額は約4億7,400万ドルとなりました。現在承認を待っている他の投資家からの1億ドルの追加資金と合わせて、今後数ヶ月間で合計約5億7,000万ドルを新興国企業のグリーン債券に投資する予定です。同ファンドは資金の80%を米ドル建てまたは米ドル・ヘッジ付きグリーン債券に投資しなければならない見通しですが、残りの部分は現地通貨建てグリーン債券や地方政府、地域政府および企業が発行したグリーン債券に投資することができます。

新興国は気候変動による最も深刻な被害を受けており、なおかつ新興国の多くはそれに対処する十分な術を持っていません。REGIOは、これらの国々への投融資を誘致することで、新興国がエネルギー転換を実現し、気候変動による影響を抑制できるよう支援することを目的として設計されています。世界のグリーン債券市場における未開拓の投資機会であるリアルエコノミー・セクターに焦点を当てることで、気候変動対策向けファイナンスに対するアクセスを拡大し、新興国におけるグリーン債券市場の更なる発展を推進することを目指しています。新興国は現在、新型コロナウイルスのパンデミックに伴う経済的ショックを背景とした資本流出に悩まされており、このような時期であるからこそ、同ファンドの支援者はこれらの市場への投資に強い関心を抱いています。今こそ、セカンダリー市場でポジションを取り、



2020年5月、IFCとHSBCグローバル・アセット・マネジメントは、REGIOファンドのために3億2,400万ドルの追加資金を調達するため、オンラインでの署名式に立ち会いました。

今のところ比較的流動性が低いと見なされている商品に多額の流動性を注入することにより、市場に強力なシグナルを送る絶好のチャンスです。

REGIO ファンドは、新興国の非金融会社を対象とした初のグローバル・グリーン債券・ファンドとして、この重要な借り手層に対して新しいチャンスを提供しています。REGIO ファンドは、新興国が気候変動緩和能力を高められるよう、資金へのアクセスを拡大することによってそれを実現しており、産業、アグリビジネス、サービスおよびインフラ・セクターの「リアルエコノミー」企業に焦点を当てています。同ファンドが及ぼすインパクトの大半は、アンカー投資家を陣営に加え、グリーン債券の起債を支援することにより、起債を希望する新興国企業が直面している課題のいくつかに対処することによって実現します。新興国の非金融会社および現地当局が発行したグリーン債券の発行残高は総額650億ドル、本数は275本にのびります。このうち68%に当たる207本が中国をはじめとする北アジアのグリーン債券であり、それ以外の68本、総額210億ドルのグリーン債券の内訳は、南アジアが70億ドル、ラテンアメリカが56億ドル、欧州が37億ドル、東南アジアが27億ドルとなっています。

HSBCとIFCは、この革新的な分散投資ファンド・ソリューションにパートナーとして参画することにより、市場に対し、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた有意義な前進を遂げるために必要な資金を動員することの重要性についての明確なメッセージを送っています。

## 2020年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト

以下のインパクト・アセスメント表は、IFCのグリーンボンドによる資金調達が全部または一部適格とされたプロジェクトによって期待される気候変動対策の効果を示すものです。

この表には2020年度にコミットしたプロジェクトのみが掲載されています。プロジェクトはセクター別にまとめた上で、プロジェクトの種類ごとに、再生可能エネルギー（RE）、エネルギー効率化（EE）、RE・EEに含まれない気候変動緩和プロジェクト（その他緩和策）、そして適応策に分類されています。適応策とは、気候変動やそれに関連するリスクに対して、適応能力やレジリエンスを維持・向上することで、人類や自然界が受ける被害を減らそうとする試みを指します。



報告は、プロジェクト評価時点における事前予測に基づいて行われます。インパクト・アセスメント表の数値には、組成中または実施途中にあるプロジェクトの効果の概算値が含まれており、これらの効果が最終的に実現することを確認するものではありません。このため本報告は、特定の年度または報告期間において達成された実際の効果を示すものではありません。

グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネル ギー削減量  kWh	再生可能エネ ルギープラント (建 設または改修) 設備容量  MW	グリーンビ ルディング によるイン パクト  M <sup>2</sup>	その他のインパクト	年間温室効 果ガス削減量 (推定)  CO <sub>2</sub> 排出量 (トン)	国連の持続可能 な開発目標
風力 発電	Din Energy	<a href="#">38475</a>	パキスタン	RE	IFCの融資は、パキスタンにお ける6つの風力発電プロジェ クト (総発電容量310 MW) の開発、建設、運営および保守 費用に充てられる。これらの プロジェクトでは、同国の深 刻なエネルギー需要を満た し、高コストの輸入化石燃料 に対する依存度を下げるた め、よりクリーンで低コストの 電力を提供する計画である。	12.95	177,700	N/A	50	N/A	-	106,265	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	Artistic Wind	<a href="#">40966</a>	パキスタン	RE		12.76	171,000	N/A	50	N/A	-	102,258	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	Gul Ahmed Wind 2	<a href="#">40974</a>	パキスタン	RE		12.75	185,100	N/A	50	N/A	-	110,690	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	Metro Wind Power	<a href="#">40975</a>	パキスタン	RE		19.44	240,800	N/A	60	N/A	-	143,998	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	Tricom Wind	<a href="#">40976</a>	パキスタン	RE		13.04	163,700	N/A	50	N/A	-	97,893	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	ACT II Wind	<a href="#">42613</a>	パキスタン	RE		12.81	158,400	N/A	50	N/A	-	91,793	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
風力 発電	Lekela EG Wind 1	<a href="#">40137</a>	エジプト	RE	IFCの融資は、エジプトのス エズ湾地域における250 MW の風力発電所の開発、資金調 達、建設、運営および保守費 用に充てられる。このプロジェ クトは、クリーンエネルギーの 生産と発電コストの引き下げ を後押しし、それによって天 然ガスへの依存度を引き下げ ることにより、エネルギー・ミッ クスを多様化できる見通しで ある。	26.28	1,094,000	N/A	250	N/A	-	517,309	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>

グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネル ギー削減量  kWh	再生可能エネル ギープラント（建 設または改修） 設備容量  MW	グリーンビル ディング によるイン パクト  M <sup>2</sup>	その他のインパクト	年間温室効 果ガス削減量 （推定）  CO <sub>2</sub> 排出量 （トン）	国連の持続可能 な開発目標
太陽光発電	FCS RE Massader	<a href="#">40641</a>	ヨルダン 川西岸地 区および ガザ	RE	IFCの融資は、約500の公立学 校の屋根に設置される小規模 な太陽光発電設備の開発、資 金調達、建設および運営費用 に充てられる。ソーラーパネ ルで作られた電力のほとんど は、競争力のある価格で現地 の配電システムに送られ、住 民や企業に対し、クリーンで 信頼できる電力を提供する予 定である。	8.7	23,000	N/A	28	N/A	政府の財政的利 益は310万新イス ラエルシェケル (90万ドル)相当	24,900	<div>4 質の高い教育を みんなに</div> <div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
太陽光発電	INova Corp.	<a href="#">42260</a>	メキシコ	RE	IFCの融資は、5つの太陽光発 電所のための資金調達を含 め、同社の太陽光発電セグメ ントへの進出費用に充てら れ、同国のエネルギー供給源 の多様化に役立てられる。こ れは、IFCがメキシコで資金提 供を行う、グリーンローン原則 に基づく認証を得た初めての プロジェクトである。	100.00	1,577,394	N/A	526	N/A		793,429	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
太陽光発電	Masrik Solar	<a href="#">41106</a>	アルメ ニア	RE	IFCの融資は、アルメニアのメ ツマスリク地区における太 陽光発電所の開発、建設、運 営および維持費用に充てられ る。このプロジェクトは、送電 網に接続可能な規模を備え たアルメニア初の太陽光発電 プロジェクトであり、再生可能 エネルギー源による電力供給 の割合を高めることによって GHG排出量を削減し、エネル ギー安全保障を高め、また発 電用輸入燃料への依存度を下 げることで、発電コストを引 き下げられる見通しである。	8.85	128,000	N/A	55	N/A		40,771	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>11 住み続けられる まちづくりを</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>



グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネルギー 削減量  kWh	再生可能エネ ルギープラント（建 設または改修） 設備容量  MW	グリーンビ ルディング によるイン パクト  M <sup>2</sup>	その他のインパクト	年間温室効 果ガス削減量 （推定）  CO <sub>2</sub> 排出量 （トン）	国連の持続可能 な開発目標
太陽光発電	Linyang Energy	<a href="#">41370</a>	中国	RE	IFCの融資は、中国初のグリッドパリティ*太陽光発電プロジェクトの建設費用に充てられ、GHG排出量を削減し、電力需要の高まりに対応することに用いられる。	11	368,456	N/A	299	N/A		273,989	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
バイオマス	Amadeus JV	<a href="#">42202</a>	ブラジル	RE/その他 緩和策/ 適応策	IFCの融資は、溶解木材パルプ工場の建設およびコージェネレーション型発電所の設置費用に充てられる。このプロジェクトでは、木材セルロース繊維の原料を生産し、現地で作られた余剰なバイオ電力の40%をグリーン・エネルギーとして公共の送電網に送る。またこのプロジェクトでは、持続可能な方法で約70,000ヘクタールのユーカリ農園に植樹し、管理を行う。	200	676,000	N/A	144	N/A	70,000ヘクタールの森林地帯を持続可能な方法で管理。	653,500	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>12 つくも責任 つかう責任</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div> <div>15 陸の豊かさも 守ろう</div>
グリーン ビルディング	WDP Romania	<a href="#">42730</a>	ルーマ ニア	EE/RE	IFCの融資は、ルーマニア各地における、資源効率に優れた準産業用物流施設の建設費用に充てられる。このプロジェクトでは、屋上に太陽光発電施設を設置することにより、GHG排出量、水の消費量およびエネルギー消費量を削減し、建物のEDGE認証を取得できる見通しである。	110	21,000	23,029,000	10	336,000		21,638	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>

\* グリッドパリティとは、送電網（グリッド）から供給される電力価格以下の均等化発電原価で、代替エネルギー源による発電が可能であることを指す。この用語は、太陽光発電および風力発電をはじめとする再生可能エネルギー源に関連して最もよく用いられる。

グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネル ギー節減量  kWh	再生可能エネ ルギープラント（建 設または改修） 設備容量  MW	グリーンビ ルディング によるイン パクト  M²	その他のインパクト	年間温室効 果ガス削減量 （推定）  CO <sub>2</sub> 排出量 （トン）	国連の持続可能 な開発目標
グリーン ビルディング	FCS RE SEEMA Hos	<a href="#">39533</a>	イラク	EE	IFCの融資は、161床の総合 病院の建設費用に充てられ る。これには、エネルギー効 率、水の消費および資材に 関する設計の改善も含まれ る。このプロジェクトは、EDGE 認証の取得を目指している。	14.44	N/A	1,798,700	N/A	23,356	-	760	<div>3 すべての人に 健康と福祉を</div> <div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
グリーン ビルディング	Humania	<a href="#">42285</a>	中東・北 アフリカ (MENA) 地域	EE	IFCの融資は、医療サービス 需要の高まりに対応するた めの、複数の診療科から成る 病院ネットワークやヘルスケ ア施設のグリーンビルディン グの開発費用に充てられる。 このプロジェクトは、EDGE 認証の取得を目指している。	17.5	N/A	3,400,000	N/A	123,693	-	1,730	<div>3 すべての人に 健康と福祉を</div> <div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
グリーン ビルディング	Nyaho	<a href="#">43161</a>	ガーナ	EE	IFCの融資は、主幹病院の改 修費用に充てられる。これに は、効率化を目的とした設計 の改善のほか、一次医療およ び緊急医療を提供する衛星診 療所の新設、ならびにハブ・ア ンド・スポーク・モデルを実現 するための戦略的立地にお ける保健ハブの新設が含まれ る。主幹病院は、EDGE認証の 取得を目指している。	5.20	N/A	459.3	N/A	5,200	-	167	<div>3 すべての人に 健康と福祉を</div> <div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>
グリーン バンキング	Lionbridge Green	<a href="#">41378</a>	中国	その他 緩和策	IFCの融資は、トラック運転手 向けの電気自動車ファイナ ンスリース・サービスの拡充費 用に充てられる。環境に優し い電動トラックのファイナンス リースを推進することで、GHG の排出量を削減できる見込み である。	20	N/A	N/A	N/A	N/A	-	122,419	<div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div>9 産業と資源革新の 基盤をつくらう</div> <div>12 つくる責任 つかう責任</div> <div>13 気候変動に 具体的な対策を</div>

グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネルギー節減量  kWh	再生可能エネルギープラント（建設または改修） 設備容量  MW	グリーンビルディング によるインパクト  M <sup>2</sup>	その他のインパクト	年間温室効果ガス削減量 （推定）  CO <sub>2</sub> 排出量 （トン）	国連の持続可能な開発目標
輸送	Bog Transmicable	<a href="#">39772</a>	コロンビア	その他 緩和策	IFCの融資は、低所得地区と都市の公共交通機関をつなぐケーブルカーの建設費用に充てられる。これにより、渋滞を緩和し、ケーブルカーの便数を増やせる見込みである。利用者は移動時間を年間約620万時間短縮できると見られ、それにより年間約1,470万ドルを節約できる見通しである。	30	N/A	N/A	N/A	N/A	1日約20,000人の乗客の移動時間を片道平均57分短縮できる見込み（合計84%短縮）。	134	<div>8 働きがいも経済成長も</div> <div>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div>11 住み続けられるまちづくりを</div> <div>13 気候変動に具体的な対策を</div>
輸送	Casa Tramway	<a href="#">41818</a>	モロッコ	その他 緩和策	IFCの融資は、路面電車2路線の新設費用に充てられる。このプロジェクトでは、路面電車サービスを改善・拡張し、相互接続性を高め、首都カサブランカの路面電車網の軌道を25.5km延伸し、39の駅と44台の路面電車車両を追加する。これにより、移動時間が最大40%短縮されるほか、周辺の都市部への、より効率的で環境に優しい輸送手段が加わり、市内の特に人口密度の高い地域における交通渋滞をある程度緩和できると見られる。	40.6	N/A	N/A	N/A	N/A		4,000	<div>8 働きがいも経済成長も</div> <div>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div>11 住み続けられるまちづくりを</div> <div>13 気候変動に具体的な対策を</div>

\*\* 富栄養化とは、ある水域に含まれる栄養物質が増加し、水中植物が繁殖した結果(藻類の異常発生など)、通常、酸素不足のために水中の動物が死んでしまうプロセスを指す。

グリーンボンド 気候変動対策 分野	プロジェクト名	プロ ジェクト ID	国名	種類	プロジェクト概要	融資契約額  百万米ドル	年間発電量  MWh	年間エネルギー節減量  kWh	再生可能エネルギープラント（建設または改修） 設備容量  MW	グリーンビルディング によるインパクト  M <sup>2</sup>	その他のインパクト	年間温室効果ガス削減量 (推定)  CO <sub>2</sub> 排出量 (トン)	国連の持続可能な開発目標
産業の 効率化	RSK-Rider Kumasi	<u>42860</u>	ガーナ	その他 緩和策	IFCの融資は、原料に100%くず鉄を使用し、年間24万トンの鉄鋼品を製造する製鉄工場の建設費用に充てられる。鉄鋼を現地で生産することにより、鉄鋼輸入を最大24万トン削減することができ、また鉄鉱石から鉄鋼を一次生産するのではなく、製造工程におけるくず鉄の使用を拡大することにより、大気汚染やGHGの排出を軽減できる見通しである。	12	N/A	N/A	N/A	N/A	-	331,909	<div>8 働きがいも経済成長も</div> <div>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div>12 つくも責任 つかう責任</div> <div>13 気候変動に具体的な対策を</div>
アグリビジネスおよび 林業	Alpha Feed	<u>41835</u>	中国	適応策	IFCの融資は、水温の上昇に伴う富栄養化**リスクに対応するため、押出技術に基づいた給餌能力を拡張することにより、養殖産業を強化する費用に充てられる。この養殖用飼料の代替的な生産工程により、養殖用飼料の消化性や、水質の安定性や浮遊性といった機能性を改善できる見込みである。	7	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	-	<div>8 働きがいも経済成長も</div> <div>14 海の豊かさを守ろう</div> <div>15 海の豊かさも守ろう</div>







## 付属資料A

# IFCグリーンボンド・プログラムのプロセス

IFCのグリーンボンド・プログラムはグリーンボンド原則 (GBP) を遵守し、ベスト・マーケット・プラクティスに即して運用されています。

## 1

### 調達資金の使途

IFCのグリーンボンド調達資金は、気候関連プロジェクト（適格プロジェクト）への融資業務に関連するサブポートフォリオに割り当てられます。グリーンボンド調達資金は、プロジェクトの融資部分のみに充当されます（エクイティ投資と保証は対象外）。

適格プロジェクトは、IFCの気候関連融資ポートフォリオの中から選定されます。このポートフォリオは、IFCの「気候関連活動のための定義と基準」に適合したプロジェクトで構成されています。少数ですが、個別案件に紐づく資金調達を行う場合、IFCグリーンボンドからの調達資金が、IFCにより直接特定の適格プロジェクトへ転貸される場合があります。



グリーンボンド適格プロジェクトには以下のような分野が含まれます。

- **エネルギー効率化 (EE)**  
製品やサービスの生産単位当たりのエネルギー消費削減に役立つ設備、システム、サービスへの投資。これには、廃熱回収システムの設置、コージェネレーション、建物用断熱材、送配電エネルギー損失の削減等が含まれます。
- **再生可能エネルギー (RE)**  
再生可能資源からのエネルギーの生産利用を可能にする設備やシステム、サービスへの投資。これには、風力、水力、太陽光、地熱等が含まれます。
- **資源の効率化**  
製造資源（エネルギー、水、原料）から販売可能生産物への変換効率を高めるよう、産業プロセスやサービス、製品の改良に向けた投資。これには、資源調達先における影響緩和等が含まれます。
- **環境負荷を低減する生産技術**  
エネルギーの効率化や再生可能エネルギー、環境負荷を低減する部品生産への投資。これには、太陽光発電所の建設、タービンの製造、建物断熱材の開発等が含まれます。
- **金融仲介機関**  
金融仲介機関への投融資。ただし、IFCからの投融資が、IFCのグリーンボンド適格要件を満たした気候変動対策プロジェクトにオン・レンディング（転貸）されることを必要条件としています。
- **持続可能な林業**

## 2

### 評価と選定

グリーンボンド適格要件に適合することはもちろん、IFCの融資を受けるプロジェクトはすべて IFC の環境・社会問題のためのパフォーマンス基準および IFC のコーポレートガバナンスに関する枠組みに準拠し、いずれのプロジェクトも厳格なデューデリジェンスの手続きを経ています。オスロ大学の国際気候・環境研究センター (CICERO) が IFC のプロジェクト評価および選定要件のレビューを行っています。同センターのセカンドオピニオンの内容は IFC のウェブサイトでご覧いただけます。

## 3

### 調達資金の管理

IFC のグリーンボンド調達資金はすべて指定されたグリーン現金勘定に移され、適格プロジェクトへの融資実行までの間、流動性に関する IFC の保守的な方針に則って運用されます（資金が直接特定の適格プロジェクトへ転貸される場合を除く）。グリーン現金勘定では発行済みグリーンボンドの残高と適格プロジェクトの融資残高の差額を把握しています。適格プロジェクトへの融資が実行されるか、グリーンボンドが償還を迎えるとグリーン現金勘定の残高が減少し、新たなグリーンボンドが発行されるか、適格プロジェクトへの融資が返済されると増加します。適格プロジェクトへの融資実行依頼は、IFC の既定方針と手続きに則って処理され、プロジェクトの進捗状況に従って一定の時間をかけて行われます。

グリーンボンドが支援するプロジェクトの気候関連の要素が、より大きな投資の一部

であるケースもあります。こうした場合は、グリーンボンド・ポートフォリオはプロジェクトの適格部分のみに融資されます。

投資対象会社には、プロジェクト活動と全投資期間を通じたパフォーマンスに関する定期報告が義務付けられ、こうした報告を元にプロジェクトのモニタリングが行われています。

## 4

### 報告

IFC グリーンボンド・インパクト・レポートは、グリーンボンド原則の報告枠組みである、「グリーンボンド・インパクト・レポートの共通枠組み策定に向けた取り組み ("Working Towards a Harmonized Framework for Green Bond Impact Reporting")」に従って作成されています。この枠組みは、透明性を高めることでグリーンボンド市場のインテグリティを確保することを目的として策定されているものです。

本レポートでは、グリーンボンド調達資金が充当されたプロジェクトのリストを掲載しており、さらに各プロジェクトの概要、気候関連融資額、期待される環境へのインパクトについても、それぞれの守秘義務を勘案したうえで掲載しています。なお、本レポートの対象となるのは、グリーンボンドの適格プロジェクトのみです。

IFCの気候関連ビジネスの詳細については、以下のサイトをご参照ください。  
[www.ifc.org/climatebusiness](http://www.ifc.org/climatebusiness)

## 付属資料B

# IFCインパクト・レポートの方針

### IFC 情報アクセスに関する方針

情報アクセスに関する方針は IFC の持続可能性枠組みの礎であり、透明性を高めることに向けた IFC のコミットメントを明確に表現したものです。

私たちは投融資および顧客、パートナー、ステークホルダーへの助言活動に関する情報を正確かつ適時に提供するよう努めています。また、プロジェクト、環境・社会への影響、そして期待される開発効果に関する情報については、理事会での検討に先行して公開するよう努めています。

このコミットメントはグリーンボンド・プログラム対象のプロジェクトにも適用されます。

### インパクト指標

本レポートは、IFC を含む国際開発金融機関の作業部会が策定したインパクト・レポートの共通枠組み（Harmonized Framework for Impact Reporting）に従い、グリーンボンド・プログラムのプロジェクトに関して、以下の 4 つのコア指標に基づいて報告しています。

1. 年間エネルギー節減量
2. 年間温室効果ガス（GHG）排出削減量・排出回避量
3. 再生可能エネルギー年間発電量
4. 再生可能エネルギープラント（建設または修復）設備容量

### インパクト指標の解釈

インパクト指標はプロジェクト・レベルで追跡され、IFC の拠出額に応じた按分はされていません。金融仲介機関（FI）への投資は、IFC が直接融資できない中小企業等、より小規模な顧客による気候変動対策プロジェクトへの融資を可能にするものです。IFC はパートナーの金融仲介機関が自らの投資ポートフォリオの気候変動に対するインパクトを評価することの重要性を鑑み、アプリケーション「金融

機関のための投資に関する気候変動影響評価」を開発しました。これにより、顧客である金融仲介機関による各気候関連の投資結果のモニタリングが可能となりました。

IFC の温室効果ガス排出量の算定方法と気候関連の定義と基準については、IFC の気候関連ビジネスのサイトをご覧ください。<sup>23</sup>

レポートはいくつかのコア指標の定量化を可能にしたものですが、報告されたデータには限界があると認識していただくことが重要です。

結果を適切に解釈するための主な留意点は以下の通りです。

- **効果の範囲：**レポートはプロジェクト評価時点における事前評価であり、主にプロジェクトの直接的な効果に基づいています。
- **不確実性：**インパクト指標の予測における重要な留意点は、指標が多くの仮定に基づくことが多いという点です。技術者は、現時点で得られる情報に合理的に基づいた堅実かつ保守的な仮定を目指しますが、プロジェクトの実際の環境へのインパクトは当初の見通しから外れる可能性があります。一般に、行動変化やベースライン（基準値）条件の変化は、見通しからの逸脱を生じる要因になり得ます。
- **比較可能性：**プロジェクトやセクター、またはポートフォリオ全体を比較する際には、基準値（および基準年数）と算出方法に大きな違いがある可能性があるため、注意が必要です。さらに、各国で費用構造も異なるため、費用対効果（適格プロジェクトへの投資額単位当たりの効果）の算出をする際に、経済の規模に限界のある比較的小さな国に不利に働き、各国に即した状況を考慮しない結果になる可能性があります。
- **不作為：**プロジェクトはインパクト・アセスメント表に掲げた指標より幅広い指標で影響がある可能性があり、重要な開発効果が他にあるかもしれません。さらに、採用されたコア指標が適用できないか、データがないプロジェクトもあります。

IFC は時間とともにレポートのための算出方法の一貫性と利用可能性を改善する努力をしていますが、気候変動対策プロジェクトは関連するセクターとサブセクターが非常に多岐に及んでいるため、報告のための算出方法の共通化は容易ではありません。

<sup>23</sup> [https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/Topics\\_Ext\\_Content/IFC\\_external\\_Corporate\\_Site/Climate+Business](https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/Topics_Ext_Content/IFC_external_Corporate_Site/Climate+Business)



## IFCグリーンボンド・コミットメントおよび融資実行額の調整

2018年度および2019年度において、私たちは2014年度～2017年度グリーンボンド適格プロジェクトのポートフォリオの内部レビューを実施し、コミットメントと融資実行額の調整を行いました。以下に、過年度（2015、2016および2017年度）においてIFCが報告したコミットメントと融資実行額に関する訂正を記載しました。なお、本レポートの18～19ページに掲載されたIFCグリーンボンド地域別コミットメントおよびIFCグリーンボンドセクター別コミットメントの内訳額は、これらの訂正を反映しております。

### コミットメントに対する訂正

#### 2017年度

- 再生可能エネルギーセクターおよびエネルギー効率化セクターに対するコミットメント：それぞれ8億4,500万ドル、5億7,900万ドルに訂正されました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートではセクター名が入れ替わっていました。
- 多地域に対するコミットメント：2,400万ドルに訂正されました。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対するコミットメント：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ1億3,700万ドルと2億9,900万ドルに訂正されました。

#### 2016年度

- ラテンアメリカ・カリブ海地域に対するコミットメント、再生可能エネルギーセクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：それぞれ9,000万ドル、3億600万ドル、9億6,100万ドルに訂正されました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートには、2016年度のグリーンボンド・インパクト・レポートの適格ポートフォリオに含まれておらず、その後も適格プロジェクトと見なされたことのない候補プロジェクトが含まれていました。

#### 2015年度

- 州・中央アジア地域に対するコミットメント、エネルギー効率化セクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：プロジェクト番号35012のコミットメント減額に伴い、それぞれ3億8,200万ドルから3億7,000万ドル、2億9,600万ドルから2億8,400万ドル、11億5,500万ドルから11億4,300万ドルへと修正されました。
- 多地域に対するコミットメント、エネルギー効率化セクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：プロジェクトの種類が融資からエクイティ投資に変更されたことに伴い、それぞれ0ドル、2億7,500万ドル、11億3,300万ドルに訂正されました。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対するコミットメント：パキスタンの区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ5,900万ドルと2億3,900万ドルに訂正されました。

### 融資実行額に対する訂正

#### 2018年度

- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ7,500万ドル、2億ドルに訂正されました。

#### 2017年度

- 融資実行額合計：13億5,600万ドルに訂正しました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートには、同年に新たにコミットされたプロジェクトへの融資実行額のみが記載されておりました（8億9,900万ドル）。2017年度のグリーンボンド適格プロジェクトに対する融資実行額合計は13億5,600万ドルでした。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ1億8,400万ドル、1億9,400万ドルに訂正されました。

#### 2016年度

- 多地域に対する融資実行額：0に訂正しました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートで報告された2016年度の融資実行額1,800万ドルは、同年の東アジア・大洋州地域に対する融資実行額でした。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ8,600万ドル、1億5,400万ドルに訂正されました。

## 作成者

本レポートはIFCのFundingおよびInvestor Relationsチームが作成しました。

作成者はEsohe Denise OdaroおよびSophie Peeters、情報提供者はClimate Business担当部署のBerit Lindholdt-Lauridsen、Olga Khlebinskaya、Francisco AvendanoおよびMaria Antonia Paraanです。

データレビューおよび編集レビュー協力者はLamin Trawally、Sofia Bonaya、Elena Gex、Atiyah Curmally、Bing Bing Yuliawati、Asra Quratul Ain Nomani、Alan LukomaおよびEmma-Kate Symonsです。

## 免責事項

本レポートは情報提供のみを目的として作成されています。IFCは、本レポートに含まれる情報、意見、結論の完全性や信頼性に関して、いかなる保証および表明も行うものではありません。掲載されている報告や情報、またはこのレポートの中で言及されているウェブサイトから得られる情報は、過去のもので、その時点での情報を述べているに過ぎません。IFCはこれらの情報を更新する義務を一切負いません。

本レポートは、IFCが発行するいかなる債券についても評価基準を提供するものではありません。また、いかなるIFCの債券についても予約または購入を勧誘、推奨、提供するものではありません。いかなる状況においても、IFCまたはその関係機関は、本レポートの情報の使用に起因するいかなる損失、損害、負債、費用に対しても責任を負いません。これには直接的損害、間接的損害、特別損害、派生的損害を含み、それらに限らず、たとえそのような損害の可能性についてIFCが報告を受けていた場合を含め、いかなる状況においても、IFCおよびIFCの関係機関は責任を負いません。

IFCに関するより詳しい情報は、以下のIFCのウェブサイトより、最新版「インフォメーション・ステートメント」、財務諸表、その他関連情報を参照してください。

[www.ifc.org/investors](http://www.ifc.org/investors).

以下を除き、画像の肖像権はIFCおよび世界銀行にあります。  
表紙、P 1、P13: Shutterstock  
P22: iStock  
P 23 (Walter-Mario Stein)、P26 (Alenka Skvarc): Unsplash  
P21: Nyaho  
P39: IEnova

アイコンはFreepik ([www.flaticon.com](http://www.flaticon.com)) により作成されています。





IFC Investor Relations  
International Finance Corporation  
2121 Pennsylvania Avenue NW  
Washington, D.C. 20433

Email: [investors@ifc.org](mailto:investors@ifc.org)  
Twitter: @IFC\_Investors

[ifc.org/investors](http://ifc.org/investors)

2020年10月

